

(様式3)

【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	益田市立益田中学校		
学年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
1	総合	益田の中のわたし	吉田公民館、つろうて子育て協議会の方々、益田中学校PTA、吉田小学校PTA、吉田地区地域自治組織、30自治会の会長・役員
ねらい		公民館や自治会を中心とした地域活動の体験や交流をとおして、活動意義や内容、想いを理解し、地域の方々と繋がることで、地域への愛着を深め、地域に貢献する態度を養う。	
<p>1 取組の概要</p> <p>■地域における公民館、自治会の役割を理解し、地域活動を実際に体験することで、地域活動の充実のために、自分たちができることを考える。また、益田中学校区の地域資源を知り、活用する視点を持つとともに、活動をとおして地域の方々と繋がる喜びを感じる。</p> <p>《取組の流れ》</p> <p>8月～中学校学年部教員×市教委×公民館職員による作戦会議（22日）</p> <p>9月～「益田の中のわたし」ガイダンス（27日）、公民館・自治会オリエンテーション（28日）</p> <p>10月～自治会長へのアポイント（1日）、自治会長へのヒアリング（9-10日）、ヒアリング内容のまとめ（12日）、「自分たちにできることを考えよう」（18日）、公民館や自治会長・市職員を招いてポスターセッション（28日）</p> <p>11月～各自治会での活動（中下旬～12月初旬）</p> <p>12月、1月～冬季休業中の各地区のイベント等体験（有志）</p> <p>2月～活動のまとめ</p> <p>3月～ひとが育つまち益田フォーラム2022での展示発表（6日）</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p style="text-align: center;">（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）</p> <p>■多様な「ひと」の巻き込み…</p> <p>地域の「ひと・もの・こと」自体を学ぶのではなく、それぞれの自治会がどんな地域をめざしているのか、地域にはどんな特色があり、何をどのように生かして取組を進めているのかについて、そこに関わる地域の「ひと」に焦点を当て、「ひと」を通して学んでいった。</p> <p>「ひと」の想いや価値観に触れること、「ひと」たちと共に活動していくことを通して、「私はどんな人たちに支えられてきたか」という感謝と、「中学生である自分たちには何ができるのか」「私は今後何を大切にしながら生きていくか」ということを考えたり、子どもたち自身が主体的に行動したりするきっかけとして全体構成をした。</p> <p>放課後祝日、長期休業時の公民館や各自治会でのイチオシの活動を定期的・積極的にインフォメーションしてもらった。中学校の後押しもあって、有志の活動に参加する生徒も多数いた。その生徒たちが学習活動の中でも主体的に活動する姿が印象的であった。</p> <p style="text-align: center;">（学力育成の視点から）</p> <p>■公民館との連携協働…</p> <p>中学校学年部と共に、事前協議を公民館職員や連合自治会長と重ね、「授業で学ばせたいこと」と「地域で取り組みたいこと（特に中学生と）」が重なる部分を探り、お互いに「やりたい」部分を明確にしてからスタートした。</p> <p>つまり、単に地域イベントへの参加をしたわけではなく、総合的な学習の時間の中で、教科横断的に「学ばせたいこと」、「身に付けさせたい資質や能力」を明確にして取り組んでいる。</p>			

*取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータをHP等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）

3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

○平日に公民館に立ち寄ったり（周辺で遊んだり）、公民館活動に参加する中学生、地域活動に積極的に出かける中学生の姿が見られるようになった。他学年にも波及し、有志の中学生と地域住民、保護者で海岸清掃をする活動にも繋がっている。

○中学生の提案発表を各自治会の役員や保護者が聞いたり、逆に大人が提案し返したりする中で、子どもも大人も互いに刺激を受け、より深く、対等に学ぼうという姿勢が感じられる。また、公民館職員や自治会長から「来年度やるときには…」といった前向きな言葉も出ている。授業支援という側面だけでなく、地域にとってやりがいのある活動にもなり得る場である。

（学力育成の視点から）

○中学校の教員に対してはもちろん、地域の大人に対しても自分（自分たち）の意見やアイデアを伝える等、様々な場面において「学び」に向かう主体性の高まりを感じられる。

○他教科（国語科・理科・家庭科・社会科・数学科）横断的に学習内容が組み立てられており、それぞれの教科学習時間においても、学びを関連させながら意欲的に取り組む生徒の姿が見られた。

4 課題や今後の展望

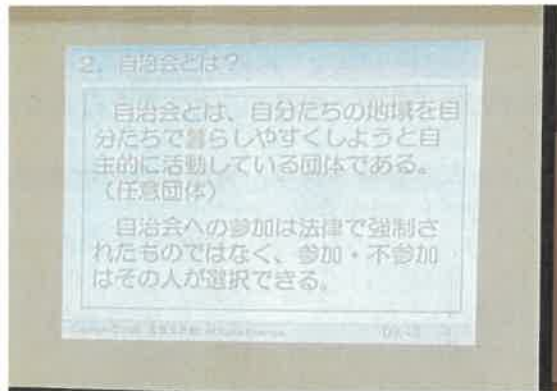
前述した通り、公民館や自治会が主体的に取り組むことができるように活動の全体設計をしてあることによって、地域の大人から中学生に対して「有難う！」という感謝、「来年度もやろう！」という前向きな言葉をたくさんかけていただいた。その声に応じ、授業外でも自主的に地域活動に参加したり、海岸清掃を主体的に企画・実行する姿にも繋がっている。

課題としては、このような動きが活発になればなるほど、先生方の把握できない地域活動や数も増えてくることが予想され、それが教員の多忙感に繋がってしまう恐れもある。

学校外の活動については、学校は引率等を考える必要はないということは整理し、はっきりさせておきたい。どこまでが授業で、どこからが地域活動なのかを明確にして、「子どもたちを地域に委ねる、地域に返す」意識を持ってもらうことが大切である。また同時に、学校や地域での子どもたちの様子を定期的に共有する場を持ち、「学校の学びと地域での実践の往還」の中で子どもたちは成長していることを実感することによって、より良い地域学校協働活動に繋がっていくと考えられる。



連合自治会長、公民館長のプレゼン



連合自治会長プレゼン資料



ポスターセッション



提案した地域活動の実践～イルミネーション設置

* 取組の様子がわかるような写真を数枚貼り付けてください。

（このデータを HP 等に掲載することがありますので、写真は必ず承諾を得たものを貼り付けてください。）